学校番号１５

金農が目指す５年後の姿（中期ビジョン）
～　令和３年度から令和７年度まで　～

秋田県立金足農業高等学校

１　本校が目指す姿

①　学校の現状や課題

本県農業の将来を見据え、農業のグローバル化、ＩＣＴを活用したスマート農業化等に対応した環境整備が求められている。本県を代表する農業高校として、農業を取り巻く社会的環境変化に柔軟に対応することができる、地域の農業や農業関連産業を支える人材の育成を目指す。

また、いのちの大切さに直接触れる農業実習や、課題研究活動、地域との交流活動を通して育まれる人間性やコミュニケーション能力、問題解決能力を、将来の進路選択にさらに生かすための方策を検討していく。

地域や県民の信頼と期待に応えるため、農業教育を一層充実させるとともに、スポーツ金農として文武両道を実践しながら、魅力的で特色ある学校づくりを行う。

②　学校を取り巻く将来の状況の予測

（１）近隣の中学校卒業者数と地区内の高校への入学者数の予測

少子化が進む中で、本校で身に付けた技術や技能によって、地域産業を担い、地域に貢献する人材の育成が一層望まれる。

秋田地区	令和２年	２，５４９名	令和７年	２，４４５名（１０４人減）
男鹿潟上南秋地区	令和２年	６２７名	令和７年	４６６名（１６１人減）

（２）社会情勢

農業を取り巻く情勢が大きく変化する中で、これまで以上に食の安全・安心・安定的な生産が望まれるとともに、農業従事者の高齢化や地方の人口減少問題により、日本の農業あるいは農業教育への関心や期待がより高まることが予想される。より安全で生産性の高い農産物生産と、効率的な流通の在り方、県産品を世界にアピールできる加工品の開発などが、今後求められていくと思われる。

③　スクール・ポリシー

（ⅰ）グラデュエーション・ポリシー（目指す生徒像）

・キャリア教育の視点に立ち、高い志をもった生徒を育成します。
・農業のスペシャリストとして必要な資質・能力を身に付けた生徒を育成します。
・農業土木技術者として必要な資質・能力を身に付けた生徒を育成します。
・農産物の加工と製造、流通に関する資質・能力を身に付けた生徒を育成します。
・造園及び関連する産業の技術者として必要な資質・能力を身に付けた生徒を育成します。
・豊かな人間性と快適な生活を営むために必要な資質・能力を身に付けた生徒を育成します。

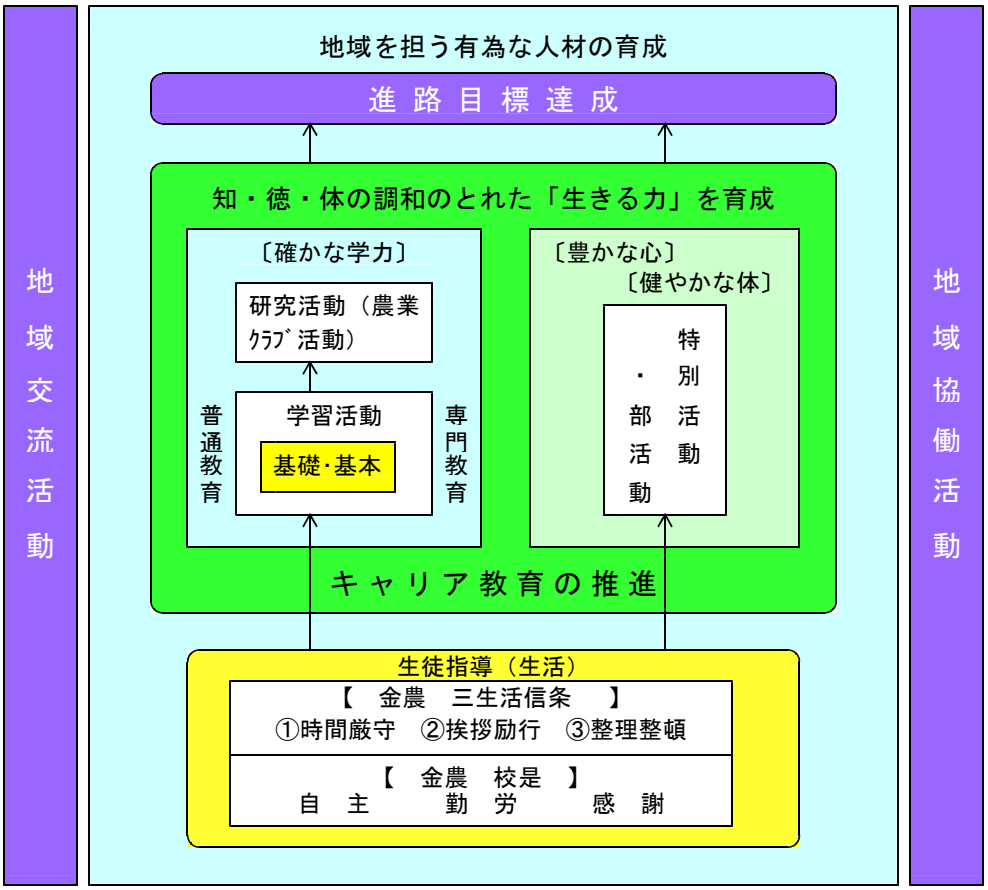
（ⅱ）カリキュラム・ポリシー（本校の学び）

・課題研究や総合実習の実施により、専門的で深い学びを実現します。
・生物資源科では、野菜や作物など農業に関する基礎知識と、継続的かつ安定的な農業と社会の発展について学習します。
・環境土木科では、農業土木設計や農業土木施工など土地改良及び農地の保全、開発や環境について学習します。
・食品流通科では、食品製造や食品流通など農産物を主とする食品の製造や流通について学習します。
・造園緑地科では、造園計画や造園施工管理など造園植物の栽培管理に必要な知識と技術について学習します。
・生活科学科では、農業の基礎科目だけではなくフードデザインや生活支援技術など家庭生活や福祉に関する知識と技術について学習します。

（ⅲ）アドミッション・ポリシー（求める生徒像）
・将来を見据えて、高い志をもって学習に取り組む生徒。
・積極的に農業クラブ・生徒会活動や研究活動に励む生徒。
・夢中になって部活動に打ち込む生徒。
・明るく思いやりをもって地域に生きる生徒。
・秋田を支え、秋田を元気にする生徒。

＜生徒育成の指針＞

金農校是と金農三生活信条の実践をベースに、文武両道の精神と社会を力強く生き抜く力を育むとともに、農業教育の中心校として自信と誇りをもたせ、地域を担う有為な人材を育成する



２　５年間を通しての具体的な目標と取組

①　５年間を通しての具体的な目標

国公立４年制大学進学率	→	進学者の１０％以上
専門性を生かした私立４年制大学進学率	→	進学者の１０％以上
県内就職率	→	就職者の８５％以上
１ヵ年皆勤者数	→	在籍者の５０％以上
部活動加入率	→	１００％
一人３資格以上の資格取得者数	→	３年生の９０％以上
東北大会への出場部活動数	→	８以上
全国大会への出場部活動数	→	６以上
農業クラブ全国大会入賞者数	→	優秀賞３部門以上

②　目標を達成するための具体的な方法、取組等

１　基本的な生活習慣の確立と社会性の育成

（１）　生徒一人一人の個性の伸長を図りながら、主体的に自己実現を目指そうとする自己理解・自己管理能力を育成する。

（２）　校是と金農三生活信条の実践により、社会人としての基本的なマナーを育成する。

（３）　道徳教育の推進により、善悪に対する判断力と規範意識や遵法精神を育成する。

２　キャリア教育の視点に立った確かな学力の育成と進路目標の達成

（１）　魅力ある授業の確立を目指すため、教師の力量を高める研修の充実を図るとともに、ＩＣＴ機器の積極的な活用を推進する。

（２）　高い進路目標や課題を設定し、自ら解決しようとする自主的な学習態度を育成する。

（３）　社会的・職業的自立に向けて、インターンシップの充実を含めたキャリア教育を推進する。

３　専門教育の深化と充実

（１）　地域が抱える課題について、生徒自らが分析し、解決するための手だてについて考え実践し、課題解決のプロジェクトに取り組む姿勢を育成する。

（２）　専門性を深化させる課題研究等を充実させ、先進的な農業技術の導入に向けた農業教育の充実を図り、高い視点での進路実現につなげる。

（３）　資格取得を推奨し、一般的な資格と各学科の専門性を生かした高いレベルの資格取得を支援する。

４　部活動の強化と充実

（１）　文武両道を実践し、目標を高く掲げ、生徒の能力を最大限に伸ばすことができるように支援する。

（２）　仲間を思いやる気持ちや、共に助け合い励まし合う心を育成する。

（３）　生徒の人格や人権を尊重し、信頼関係の構築を図るとともに、健康や安全に留意した指導を行う。

５　安全で安心な学校づくりの推進

（１）　いじめの根絶の指導、悩みを抱える生徒等への支援の充実を図る。

（２）　防災教育を推進し、生徒の具体的な対応能力の向上を図る。

（３）　教員の不祥事防止について、日ごろから研修に取り組み地域から信頼される学校づくりを進める。

６　学校改革の推進と学校組織の活性化

（１）　ＰＤＣＡサイクルの組織マネジメントによる学校経営の改革を推進する。

（２）　「あきた型学校評価」を充実させる。

（３）　学校ホームページの更新を定期的に行い、掲載内容の充実を図る。

令和３年６月策定
令和５年６月一部改訂